

上特別根拠地隊第一號ノ一七五

昭和十九年六月二十一日

第十一特別根拠地隊 戦闘詳報 第五號

(昭和十九年六月二十一日戦中)

第十一特別根拠地隊

一九六三

一九七

1181

1183

一 形勢
 二 計畫書
 三 経過
 四 命令達報告等
 五 戦果及被害
 六 我が兵力現狀
 七 功績
 八 参考
 (一) 戦訓
 (二) 略
 (三) 捕虜
 (四) 新聞
 (五) 報告書

(目次)

九六三號

(目次終)

昭和十九年六月二十日戰鬥詳報

第十一特別根據地隊

一、形勢

（一）歐洲第一戰線ニ呼應對日全面的な大攻勢ヲ呼號セル敵ハ前月來有力ノ機動部隊ヲ以テ中南部太平洋方面ニ來攻セリ

（二）從來印度洋方面ニ於テハ專ラ大型機銃ニ潛水艦ニ依ル補給路ノ防禦ニ專ラシキニシテ四月十九日ノ「サバン」コタラダヤノ空襲ニ次イテ五月十七日ノ「スラバヤ」空襲其後ノ通信諜報等ヨリテ敵ノ有力ナル機動部隊ハ印度洋ニ在リ「コロンボ」ツリシ「コマリ」ヲ中心ニ策動シテ一部ハ「バンカ」ヲ北上セルモノト如シ

（三）「コロンボ」島ニ對シテ七數百來惡天候ヲ以テ二日ニ亘リ偵察ヲナセリ更ニ又陸軍昭南通信諜報ニ依ル「サバン」コタラダヤ方面空襲時以上ニ大型艦艇ノ出現多キ狀況ニ鑑ミ我カ方特ニ警戒成テ嚴ニシアリタリ

（四）高方面ハ五月初旬ヨリ南西信風季ニ入り雨季ヲ形成シ殆ニ毎日曇リ又ハ雨ヲ伴ヒ當日モ亦早朝一雨アリ空襲時ハ雨ナリ是リタルモ雲高約五千風速四乃至五米ナリ

二、計畫

作戰準備

一九七七

一九六
九六三六四

與シテ兵力兵器作戰資材ヲ以テ凡有ル方面ニ創意工夫ヲ凝シ戰訓ヲ活用シ特ニ作菜ニ於テハ燃彈糧食等ノ分散格納地下格納ヲ勵行陣地ノ強化飛行場ノ排水工事ヲ實施シ概成ノ感ニ達セリ
尚敵ノ不意ハ急襲ニ備ヘ四月初旬以來三十人以上ノ早起ヲ以テ各隊ハ訓練ニシテ待機シアリタリ
當時海陸軍共南方面ニ航空兵力ナシ

三 経過

(一) 指揮官ノ作戰(戰鬥)指導

時刻 六二一 〇九一三	情況 判断、處置、發受セル重要命令報告 通報 等 發西岸陸上見張所 宛司令部 敵機編隊「カレア」ニ向フ 〇九一三 發司令部 宛各隊長 空襲警報 敵小型機ニヨル編隊群司令部ノ二七〇度一〇、〇〇〇米「カレア」上空ニ侵入シ ツアリ 對空戰鬥射撃開始
〇九一五	發信 A 宛根戰鬥概報着信艦所 敵艦上機三〇機見ユ
〇九一五	情況

0917	敵機、最初六機編隊にて二七〇度方向(高度約三〇〇米)より、北東上空ニ侵入ニ隊別ニ飛行場ヲ襲撃(四飛行機七機ニ對シ各三〇發以上ノ彈跟アリ)旋回及覆銃撃ヲ加フ 艦爆艦戦聯合約三〇機編隊ニテ同方向ヨリ北東上空ニ侵入ス	
0917	發指揮官 宛 台隊長 敵第一隊ノ大編隊約三十機 同シク西方ヨリ來襲ス 敵機編隊ヲ解キ又方面ヨリ攻撃ス 一方的敵機ニ捉ハル事ナク充分發射シ攻撃セヨ	
自0917 至0915	情況 敵機、我猛烈ナル銃砲火ニ逢フヤ直チニ編隊ヲ解キ二乃至三機或ハ單機トナリ高度二〇〇米位迄急降下シ四機ヨリ執拗ニ反覆銃爆撃ス 我カ方モ亦全砲火ヲ集中シ克ク之ヲ撃撃シ〇九四三西方ニ撃撃セリ	
(三)自隊(船)及支隊ノ戰鬥經過	自隊(艦)ノ戰鬥經過 發空母隊長 宛司令部 (電話) 敵艦爆撃隊ノ際 (東山砲台ノ二〇度一〇〇〇) 塔乗員落下傘ニテ降下ニ名浮流シアリ	支隊戰鬥經過ノ概要
0931	發指揮官 宛水發隊長 (電話)	

一九一七

<p>九四五</p>	<p>浮流ニテル搭乗員捕虜ノ急砲艇直ニ出動準備ヲ急ニ敵機ノ退去ニ待機セヨ</p>	
<p>〇九四六</p>	<p>發中間隊長 宛司令部 (電話) 司令部ノ九〇度一五〇〇米ニ敵潜望鏡南下入 (搭乗員浮流ニテルヲ救助ニ向ハントスルモ、如シ)</p>	
<p>〇九四五</p>	<p>發司令部 宛海正西各隊長 (電話) 司令部ノ九〇度一五〇〇米ノ敵潜砲撃準備ヲナセ 敵潜浮上ニ搭乗員ヲ救助セントセバ直ニ砲撃セヨ</p>	<p>二〇。捕虜收容ノ為 砲艇出動</p>
<p>自〇九五〇 至一七〇〇</p>	<p>情況 敵深クナリ敵潜及搭乗員見失フ 空襲警報解除後砲艇ヲ直ニ出動セシム 一〇。現場着搭乗員ヲ發見セルモ近クニ敵潜潜望鏡ニテ近寄シテ止ムナク避退セルヲ以テ縣丸及魚雷艇ニ隻ヲ急派對峙掃蕩ニ任セシムト共ニ砲艇ノ捕虜收容ヲ接護セシム</p>	<p>現場ニ敵潜ナリ收容困難ノ為引返ス一四〇〇</p>
<p>一七一五</p>	<p>發指揮官 宛縣丸艇長 (無線) 機密第一二一七五番電 附近舟艇司令部ヲ指揮シ極力漂流搭乗員ヲ搜索シテ</p>	<p>二向ニ出動魚雷艇對峙掃蕩</p>

四、(三) (四) (終)
 令達、報告及通報

発日時	受日時	令達	報告	通報	種別
一〇五五 島見飛所	A根 指揮官	機第三一〇三〇番電 〇九三敵戦爆聯合三十五機來襲銃爆撃後。九三六西方ニ去ル 敵機動部隊ヲ發進セルモノト認ム	機第三一〇三〇番電 〇九三敵戦爆聯合三十五機來襲銃爆撃後。九三六西方ニ去ル 敵機動部隊ヲ發進セルモノト認ム	機第三一〇三〇番電 〇九三敵戦爆聯合三十五機來襲銃爆撃後。九三六西方ニ去ル 敵機動部隊ヲ發進セルモノト認ム	機第三一〇三〇番電 〇九三敵戦爆聯合三十五機來襲銃爆撃後。九三六西方ニ去ル 敵機動部隊ヲ發進セルモノト認ム
		三被害 造船所小破 大發一隻炎上ノ外ナシ	三被害 擊墜 三機	機第三一〇五五番電 敵浮上潜水艦 五ヨリノ方位ニ二〇度一五料ニ去リ	
				機第三一〇八一〇番電 一七三五捕獲三名砲艇ニ收容シ一九〇〇砲艇背退着 何レモ敵潛攻撃ヲ止メテリアニ ノ事是	機第三一〇八一〇番電 一七三五捕獲三名砲艇ニ收容シ一九〇〇砲艇背退着 何レモ敵潛攻撃ヲ止メテリアニ ノ事是
				機第三一〇八一〇番電 一七三五捕獲三名砲艇ニ收容シ一九〇〇砲艇背退着 何レモ敵潛攻撃ヲ止メテリアニ ノ事是	機第三一〇八一〇番電 一七三五捕獲三名砲艇ニ收容シ一九〇〇砲艇背退着 何レモ敵潛攻撃ヲ止メテリアニ ノ事是
				機第三一〇八一〇番電 一七三五捕獲三名砲艇ニ收容シ一九〇〇砲艇背退着 何レモ敵潛攻撃ヲ止メテリアニ ノ事是	機第三一〇八一〇番電 一七三五捕獲三名砲艇ニ收容シ一九〇〇砲艇背退着 何レモ敵潛攻撃ヲ止メテリアニ ノ事是

一九七

司令官 三二八二五	司令官 二二二二三	SHB 指揮官 一九一五	SHB 指揮官 一〇〇二
A 根拠地 艦隊司令部	A 根拠地 艦隊司令部	SHB 二〇〇五 P/SB 2 GP	A 二〇〇七 SHB 各艦長 艦隊司令部 大連海軍司令部
機密第二二一八二五 西電 艦隊機密第二二一〇三〇番電 左ノ通追加訂正ス	機密第二二二二三番電 一三十一日一〇〇〇敵潜水艦南「アンタマン」ノ東西ニ各一隻發見セリ、 海中墜落敵機搭乗員ヲ救助セントスル敵潜水艦望遠鏡發見セルヲ以テ一五〇〇迄各砲ヲ即應態勢トシ並視艦ヲ附テ待機スルモ浮上セズ己々ナク對潛攻撃ヲ實施シツ搭乗員(艦隊搭乗員三名)ヲ捕虜トナス 其ノ後對潛攻撃ヲ續行セルモ効果ナシ (終)	SHB 機密第二二一九一五番電 電令作第二〇二號 C 作戰 D 一作戰警戒	SHB 電令作第二〇〇號 一九一五敵艦上機三〇機「カレラ」ニテ發見ノ報アリ SHB 各根拠地部隊指揮官ハ SHB 邀撃部署ニ依リ作戰スマシ 一三空司令官ハ作戰可能ノ機材ヲ整備シ速ニ前線進出準備ヲナシ置ケ 受報者 威、岡、富、定、司、 (終)
1000	1000	1000	1000

一九一六
元六三三號

五 戦果及被害

(一) 戦果

(イ) 六機撃墜(内二機不確實)撃破四

(ロ) 艦爆搭乗員三名(中尉少尉各一、下士官一)ヲ停虜トス

(二) 被害

(イ) 戦死七(内陸軍五)重傷四(内陸軍三)

他^二現地人^一即死七重傷四

四其他

造船所小破 大発一隻炎上 甚^ニ損害極メテ修復

有線電話線数々所切断 不通トリタルニ復旧セリ

本我が兵力ノ現状

更ニ状ヲ認メズ

七 功績

敵大編隊ノ急襲ニ當リ逸早ク發見沈着ニテ適切ナル處置ヲ講ジ克ク全銃砲火ヲ集

⑦

戦果	戦果
撃墜三ヲ六(不確實一)撃破四ニ訂正	撃墜三ヲ六(不確實一)撃破四ニ訂正
捕虜(艦爆搭乗員)三名ヲ追加	捕虜(艦爆搭乗員)三名ヲ追加
戦死七(内陸軍五)重傷四(内陸軍三)ヲ追加	戦死七(内陸軍五)重傷四(内陸軍三)ヲ追加
(終)	(終)

戦果報第十三號 (六月五日)

中、恒ニ有効ナル激撃態勢ヲ持シ、六機撃墜（一機不確実）四機撃破ノ戦果ヲ獲得シ、且撃墜機ノ搭乗員三名ヲ捕虜トシ、訊問ノ結果、極メテ有益ナル資料ヲ得タルハ、其ノ功績極メテ優秀ナルモノト認ム

八、参考 （一）戦訓

敵、今回當地重要諸施設、船舶ニ對シ相雷銃爆撃ヲ實施セルモ、幸ニシテ人員兵器燃、彈、需品糧食其他、作戰資材ノ被害極メテ僅少ナリシハ、人カ散格納、掩体、偽装等從來ノ戦訓ヲ極力活用シ、被害局限ニ努メタル結果ニ要因アリト認ムルニ至ル戦訓所見ヲ擧ケルハ、次ノ如シ

（一）造船所並ニ飛行場ノ銃爆撃ニ依リ、電燈電話線爆破切断サレ、直ニ一部通信連絡不能トナリタリ

重要施設ハ、當然銃爆撃ノ好目標トナルヲ以テ附近一帯ノ照明動力電話線等ハ、凡テ地下線トナス要アリ

其他ノ場所ニ於テハ、電線、極力道路ニ沿ハサル如ク敷設スルヲ可ト認ム

又電話線切断ノ際、應急用トシテ視覚通信ニヨリタルハ、カラナルヲ以テ平素ヨリ之カ演練ヲ圖ル要アリ

尚視覚通信實施ノ際、通信員ノ敵ニ暴露スル惧アルヲ以テ之カ遮蔽ヲ考慮シテ見張所ヲ設置スル要アリ

(四) 効用

(1) 空襲當時飛行場ニ四機七機ヲ配シアリタルニ敵機ハ之ニ銃撃ヲ集中シ機ニ對シ平均約三〇以上ノ彈痕ヲ止メタリ

高捕獲ノ言ニ依リハ敵側ハ戦闘機ヲ主トスル我カ飛行機約一〇機以上配備ニアリト判断ノ下ニ來襲セリト

(2) 見張員ハ空襲ト同時ニ他ニ移動セルヲ以テ被害者ナカリシモ見張所ハ反覆集中銃撃ヲ受ケタリ又兵舎モ相當銃撃ヲ受ケタリ

(3) 敵ハ逆探ニ依リ電探所ノ位置ヲ明瞭ニ知り居リ眞先ニ空襲ヲ受ケタルモ迷彩偽裝良好ナリト附近ニ頭着ナル見張所及電探ノ困アリシタニ銃撃ヲ集中シ實害皆無ナリ

右諸点ニ鑑ミ迷彩偽裝ニ工夫ヲ凝シ更ニ因ヲ活用シテ被害ノ減少ヲ圖リ且之ニ對シ銃砲火ヲ集中シ得ル如ク陣地配備ヲ考慮スルヲ要ス

(4) 空襲中ハ極力移動セサルヲ要ス
空襲中移動セル自動車及動キタル人員ハ敵機ノ掃射ヲ受ケタリ

(5) 衣服ノ分散
今次ノ空襲ニ於テ兵舎ノ反覆掃射ヲ受ケタルモノアリ兵員ハ全部陣

地ニアリシヲ以テ人員ノ被害ナカリシモ一部設置セル衣服ニ命中使用不能ノ状態トナレリ兵舎ニ當座入用ノ衣類殘置ニ他ニ分散格納スルヲ要ス

(一) 憲真 (略)
(二) 天氣圖 (略)
(三) 捕虜訊問調書
土特根機庫第一號ノ一四七ニ依リテト

1192